

日本語指導の状況について

1. 令和2年度 日本語指導が必要な児童・生徒の見込み

(1) 令和2年度当初に日本語指導が必要な児童・生徒数 (令和2年1月31日調査より)

①市全体人数

区 分	人数	学校数
小学校	114人	10校
中学校	45人	6校
合 計	159人	16校

②学校別人数

学校名	学年(令和2年度)						計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
今市小学校	0	0	0	0	1	0	1
塩冶小学校	8	7	7	6	10	10	48
神戸川小学校	1	0	1	0	0	1	3
高松小学校	1	0	0	2	0	0	3
四絡小学校	4	1	5	4	2	2	18
平田小学校	0	0	0	0	0	1	1
国富小学校	0	0	0	0	0	1	1
荒木小学校	1	0	1	0	0	0	2
西野小学校	1	0	1	0	0	1	3
中部小学校	5	5	7	2	10	5	34
第一中学校	0	0	1				1
第二中学校	9	3	9				21
第三中学校	1	3	4				8
斐川東中学校	0	0	1				1
斐川西中学校	8	2	3				13
大社中学校	0	0	1				1
合計							159

(2) 令和2年度中の推移 (過去3年の伸び率から推計)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度の予想
5月1日の人数	117人	156人	166人	159人
2月末の人数	146人	166人	172人	199人
年間増加率	1.25倍	1.06倍	1.04倍	1.25倍

2. 令和2年度における課題

(1) 中学生（特に3年生）への進路保障の取組

①中学生の学齢での転入が増えている。

【平成29年～令和30年度転入生徒】 38人

【令和2年度の中学3年生】 19人（14人が中学生での転入）

年度	人数	第二中	第三中	斐川西中	第一中	大社中	斐川東中
令和元年	16人	10	2	3	1	0	0
令和2年	19人	9	4	3	1	1	1

(2) 初期・中期の日本語指導の充実

①日本語初期集中指導教室から在籍校への系統的な指導（円滑な接続）

②出雲版日本語指導カリキュラムの作成・実践

(3) 母語支援の充実

①母語による日常的な保護者連絡や学習サポートの充実

（日本語指導補助員や通訳翻訳支援員の配置）

【令和元年度配置】 日本語指導補助員 3人（学校2人・初期集中指導教室1人）

通訳翻訳支援員 3人（学校3人）

(4) 保育所・幼稚園等との連携

①就学予定児の実態把握（日本語レベル・特別な支援の必要性）

【令和元年度の市内保育所・幼稚園在籍時の外国籍年長児】 19人

※このほか、在宅 2人

【参考】令和元年度の取組について

1. 日本語指導が必要な児童・生徒数

区 分	令和元年5月1日	令和2年2月14日	増 減
小学校	10校	11校	8人増
	114人	122人	
中学校	6校	6校	2人減
	52人	50人	
合 計	16校	17校	6人増
	166人	172人	

【増減の要因】

* 日本語指導が必要な児童・生徒の転出入

* 年度途中での日本語指導の終了(日本語レベルの向上・2年間の指導の終了)

2. 日本語初期集中指導教室の取り組み

(1) 令和元年度の教室生

区 分	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	計
	4/15-5/20	5/24-6/20	6/26-7/24	8/27-9/25	10/1-10/30	11/6-12/3	12/9-1/17	1/23-2/20	2/26-3/25	
塩冶小	2	2	1	1	2	1	0	1	1	11
四絡小	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
中部小	2	3	1	2	0	0	0	3	0	11
その他 小学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二中	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
三中	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
斐川西中	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
その他 中学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	8	5	3	4	2	1	0	5	2	30
(小・中)	(6・2)	(5・0)	(2・1)	(3・1)	(2・0)	(1・0)	(0・0)	(4・1)	(1・1)	(24・6)

※第3期生は、8/19～23の5日間「夏休み学習会」を実施。

(2) 取組に関する感想

① 修了した児童・生徒

○指示されていることがよくわかる。

○早く学校に行ってみたいと思うようになった。学校が楽しみ。

○勉強が楽しい。安心して勉強することができる。

○平仮名の読み書きができるようになって、とてもうれしい。

② 保護者

○この施設ができてとても良かったと思う。

○保護者としても安心できる。

(学校に行く前にいろいろなことを説明してもらったり、質問したりできる。)

○整った環境の中で、子どもには頑張って学んでほしいと思う。

▲授業時間を長くしてほしい。下校時間を学校と同じぐらいの時刻にしてほしい。

③ 受け入れる学校

○授業の仕方、給食、掃除、学校行事など「日本の学校」のことを学んでから来るので、児童・生徒や保護者の理解がスムーズになった。

○朝終礼、給食など毎日の流れが分かっていたことは、本人は安心していたと思う。

○初期教室で給食体験をするので、学校では、給食準備の支援がほとんど必要なかった。

○ひらがなやカタカナを一定程度習得してから来るので、次のステップから学習を始めることができる。

○事前に児童のことを把握できるので、時間割編成や準備ができて負担軽減につながった。

○保護者も子どもも宿題への理解が早い。初期集中指導教室から来た児童・生徒は、宿題を忘れることはほとんどなかった。

○保護者の学校への理解、信頼感がより強くなった。保護者からの問い合わせや行き違いもなく順調だった。

▲中学生には、数学や英語など、日本語以外の学習内容をもう少し増やしてほしい。

④ 教室の日本語指導員

○1クラスの人数が少なく、母語での発言がしやすい。発話練習もしやすい環境である。

○転入してきた子どもたちが同じ環境で学習のスタートが切れるので、安心して学習に臨むことができ、気持ちも楽だと思う。

○母語サポートがあり、授業中でも休み時間でも母語で話せるので居心地がよいと感じている様子である。子どもたちの笑顔が増えている。

出雲市における日本語指導について【令和元年度】

1. 日本語指導が必要な児童・生徒の状況（日本語初期集中指導教室 第8期）

令和2年2月14日現在

学校名	人数(人)	ステージ 0・1・2(人)	母語別人数	初期教室 在籍人数	指導者配置数(人) ※ [] 内は派遣		
					県加配教員	市日本語指導員	市巡回日本語指導員
今市小	2	0	ポルトガル語2人				
大津小	3	0	ポルトガル語1人 中国語1人 日本語1人				
塩冶小	51	21	ポルトガル語45人 タガログ語3人 インドネシア語2人 ベンガル語1人	1	6	5	
神戸川小	2	0	ポルトガル語2人			[1]	
高松小	2	0	ポルトガル語2人				[1]
四絡小	15	13	ポルトガル語15人		1	2	1 [1]
北陽小	1	0	ポルトガル語1人				1
平田小	1	0	中国語1人			[1]	
国富小	1	1	ポルトガル語1人				
西野小	2	0	日本語2人				[1]
中部小	42	16	ポルトガル語42人	3	3	5	[1]
第一中	1	1	ポルトガル語1人			[1]	
第二中	26	9	ポルトガル語24人 タガログ語1人 中国語1人		4	3 [1]	1
第三中	10	4	ポルトガル語10人		1	1	[1]
向陽中	1	0	中国語1人			[1]	
斐川東中	1	0	ポルトガル語1人				1
斐川西中	11	7	ポルトガル語11人	1	1	1	
合計	172	72	ポルトガル語158人 日本語3人 タガログ語4人 中国語4人 インドネシア語2人 ベンガル語1人	5	16	17	4

※ 加配教員や指導員が配置されない学校は、自校での日本語指導対応。

※ 日本語ステージ1：学校生活に必要な日本語の習得が始まる
 3：支援を得て、学級活動にも部分的にある程度参加できる。
 5：授業にある程度の支援を得て参加できる。

2：支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む。
 4：学級活動にある程度参加できる。
 6：積極的に授業に参加できる。

2. 日本語指導体制

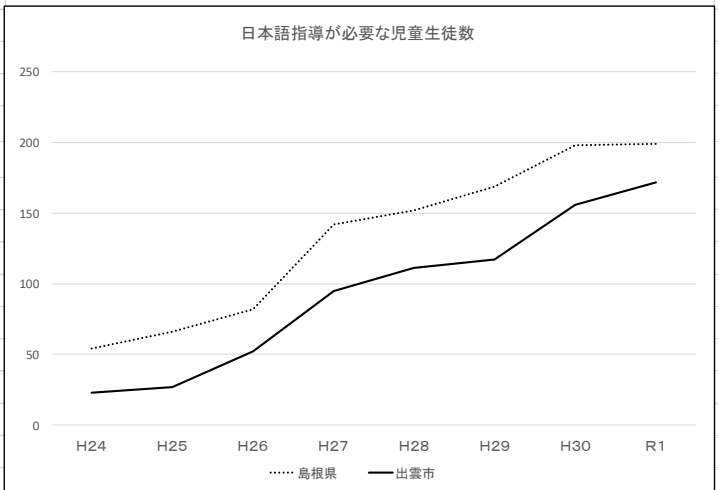
職	所属校	人数	担当校
県加配教員	塩冶小	6	塩冶小
	四絡小	1	四絡小
	中部小	3	中部小
	第二中	4	第二中
	第三中	1	第三中
	斐川西中	1	斐川西中
市日本語指導員 (教員免許保有)	塩冶小	5	塩冶小
	四絡小	2	四絡小・神戸川小
	中部小	5	平田小
	第二中	3	第一中・向陽中
	第三中	1	第三中
	斐川西中	1	斐川西中
市巡回日本語指導員 (教員免許保有)	初期教室	2	日本語初期集中指導教室
	斐川東中	1	四絡小
	北陽小	1	高松小・西野小
	四絡小	1	第一中
	第二中	1	第三中

4. 日本語指導が必要な児童生徒数の推移

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
島根県	54	66	82	142	152	169	198	199
出雲市	23	27	52	95	111	117	156	172
県加配教員	3	3	4→5	5→7	8→9	10→11	11→13	15→16
学校配置市指導員	3	3	5→6	6	12	14	19→21	20→21
学校配置市補助員	-	-	-	-	2	2	2	2
初期教室市指導員	-	-	-	-	-	-	-	2
初期教室市補助員	-	-	-	-	-	-	-	1
市通訳・翻訳支援員	-	-	-	-	-	1	2	3
市配置合計	3	3	6	6	14	17	25	29

※児童生徒数は「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」（各年5/1現在）による

※ただし、令和元年は12/17現在



3. 通訳・翻訳等の支援体制

職	所属校	人数	担当校
市日本語指導補助員	塩冶小	2	塩冶小
	初期教室	1	日本語初期集中指導教室
市通訳・翻訳支援員	第二中	1	第三中巡回
	塩冶小	1	斐川西中巡回
	中部小	1	四絡小巡回